新潟大学　人を対象とする研究等倫理審査委員会　オプトアウト書式

①　研究課題名	眼窩下神経の走向パターン解析と損傷リスクに関する研究
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
2021～2022 年度新潟大学歯学部、大学院医歯学総合研究科における人体解剖学実習で用いた篤志献体のご遺体	
②　概要	
口の中の手術では口の中を切開することがあり、手術書では横に切開することが勧められています。解剖書で頬や上唇の感覚を支配する神経（眼窩下神経）の走向が上唇では横向きに記載されていることが、横に切開する推奨理由と思われます。しかし、その切開により眼窩下神経領域の感覚が悪くなることがあります。当研究室で 1 体の解剖体を用いて神経の走向を見てみると、縦方向に走向することがわかりました。縦方向に走る神経を横切りしたため、神経が切れて感覚が悪くなってしまったと考えられます。 今回私たちは、個体差がある可能性を考えて複数の解剖体を詳細に解剖することによって、「眼窩下神経の一般的な走向、特に末梢側である上唇内の走向は、垂直方向の分枝がスダレ状のパターンを構成する」という仮説を検証することを目的として本研究を計画しました。	
③　申請番号	2022-0178
⑤研究の目的・意義	眼窩下神経の走向を解明することで、手術時の神経を痛めるリスクを減らすことに貢献できると考えられます。
⑥研究期間	倫理委員会承認日から 2024 年３月まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	遺体引取情報は解剖学教室で保管し、性別、年齢、年度以外の個人情報は扱いません。得られた情報の集積は暗号化ないしパスワードロックを行ったファイルで行い、学会や論文で公表する場合も含めて、ご遺体のプライバシーに関する内容は一切外部に公表しません。
⑧利用または提供する情報の項目	性別、年齢、年度、個人を特定できない眼窩下神経の走向と層構造、唇の周りの筋肉との関係を示す解剖所見
⑨利用の範囲	新潟大学歯学部解剖学実習室　研究責任者：医歯学系（歯）大島勇人
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学・医歯学系（歯）・教授・大島勇人
⑪お問い合わせ先	TEL: 025－227－2812 E-mail: histoman@dent.niigata-u.ac.jp